

別表（第2条関係）

廃液等回収区分(分別貯留容器区分)					
分類	種類	対象成分	摘要	優先順位	容器
A 水銀系廃液	水銀系廃液 無機水銀 有機水銀 2回目までの洗浄 廃液を含める。	1. 無機水銀系廃液には「無機水銀」、 有機水銀系廃液には「有機水銀」と明 示し、明確に区別すること。ること。 2. シアンを含む場合は「含シアン」と 明示すること。 3. その他の重金属を含む場合は「含ヒ 素」、「含銅」などと明示す	1. 金属水銀、アマルガム水銀、不要になった水銀系 試薬、薬剤などは除く。（別途処理）	1	本学が支給する青色タグ 付容器
	B シアン系廃液	1. 遊離シアン廃液で、p H10.5以上で 保管されているもの。 2. 重金属を含む場合「含カドミウム」 などと明示すること。 [注意] 遊離シアン廃液は酸性にすると 毒性のシアン化水素ガスを発生するの で、必ずアルカリ性で保管し、運搬す ること。 発生～排出の経緯を明示すること。 p Hを明示すること。	1. 難分解性シアン錯体、R ₄ Ag(CN) ₂ 、R ₂ Ni(CN) ₄ 、 R ₃ Cu(CN) ₄ 、RAu(CN) ₂ 、R ₃ Fe(CN) ₆ 、R ₄ Fe(CN) ₆ 、R ₃ Co(CN) ₆ など電離定数10 ⁻²¹ 以下のものは難燃性の有機金属 系廃液として、FⅡ分類に入れること。→焼却処分 2. シアン錯体固形物、シアン系廃液の濾過残渣など は有害固形廃棄物として、貯留すること。(別途処理) 3. 有機系シアン化合物(液)は難燃性の有機金属系廃 液として、FⅡ分類に入れること。→焼却処分	2	本学が支給する青色タグ 付容器
	C フッ素系廃液	1. このC分類は塩化カルシウムによる 石灰化反応で、安定なカルシウム塩と して沈殿させるグループであるので、 リン酸系廃液もこれに含めるか、「フッ 系」、「リン酸系」の区分を明示すること。 2. 重金属を含む場合は、「含六価クロ ム」、「含ニッケル」などを明示すること。 [注意] フッ化水素の蒸気吸入で肺水腫、 皮フ付着で出血性潰瘍をおこすので、 ので、要注意。	既に沈殿物としてカルシウム塩になっているものは、 夾残重金属をはっきりさせた上で実験廃棄物として貯 留すること。	3	本学が支給する青色タグ 付容器
D 重金属系廃液	重金属系廃液 2回目までの洗浄 廃液も含める。 I	1. Fe、Ni、Co、Zn、Cu、Mn、Cd、Pb、 Ga、Cr、V、Ti、Ge、Snなどの重金属 の廃液 2. As100ppm以下の廃液 3. Al、Mgなどの金属廃液	1. 発ガン性物質（例 Beなど） 神経系障害物質（例 Tiなど） 粘膜皮膚障害物質（例 Osなど） など、作業者の健康障害をひきおこす化学物質は 除く。これらは排出者の責任で発生源で安全化处理 すること。 2. 放射性同位元素及びこれに汚染したものは、一切 取扱うことができない。これらは別の法律の規制を うけているので、RⅠセンターに相談すること。 3. ニッケルカルボニル、アルキルアルミニウムなど の猛毒物質は、排出者の責任で無害化してから、こ の重金属系廃液にいれること。	4	本学が支給する青色タグ 付容器
	酸及びクロム混酸 廃液 II	1. 塩酸、硫酸、硝酸などの無機酸の廃 液及び1～2回洗浄液 2. クロム酸－硫酸混液の廃液及び1～ 2回洗浄液	1. クロム酸－リン酸混液の廃液は、Cr ⁺⁶ を完全に Cr ⁺³ としたあと、C分類に入れること。(別途処理) 2. 有害物を含まない塩酸、硝酸の希薄廃液（5％以 下)は、アルカリ中和して、多量の水で希釈放流して可 3. 3回目以降の洗浄廃液はアルカリ中和して、多量 の水で希釈放流して可 4. フッ素、リン酸系廃液は、C分類に入れること。 5. 青酸系は、B分類に入れること。 6. 有機酸（トリフロロ酢酸などフッ素を含むものも 含む）は、FⅠ又はFⅡ分類に入れること。 既に、クロム酸－硫酸混液の廃液の還元中和沈殿 物は、実験廃棄物として貯留すること。	4	本学が支給する青色タグ 付容器
	アルカリ系廃液 III	1. 水酸化ナトリウム、水酸化カリウム などの廃液 2. 炭酸ナトリウム、炭酸カリウムなど の廃液	1. 水酸化カルシウム系廃液は、C分類に入れること。 2. 水酸化マグネシウム系廃液は、DⅠ分類に入れるこ と。 3. アミン類水溶液は、FⅡ分類に入れること。 4. 有害物を含まないアルカリの希薄廃液(5％以下) は、酸中和して、多量の水で希釈放流して可	4	本学が支給する青色タグ 付容器

廃液等回収区分(分別貯留容器区分)					
分類	種類	対象成分	摘要	優先順位	容器
E 可燃性廃液	炭化水素系 廃溶剤 (水を含まないもの) I	1. 脂肪族炭化水素 石油エーテル、ヘキサン、ヘプタン、 オクタンなどの廃溶剤 2. 脂肪族酸素化合物 アセタール、アルコール類、アセトン、 エチルメチルケトン、酢酸エステル類などの廃溶剤 3. 脂肪族含窒化合物 アセトニトリルなどの廃溶剤 4. 芳香族化合物 ベンゼン、トルエン、キシレン、スチレンなどの廃溶剤 5. 芳香族含窒化合物 ピリジンなどの廃溶剤 以上の廃溶剤中に爆発性を有しない少量の 中性有機物（アミド、エステル類など）を含むものは可	1. ジエチルエーテル、ジオキサン、イソプロプルエーテル、アセトアルデヒド、テトラリン、テトラヒドロフランなど過酸化物をつくり易いものは除く。 これらについては原点処理（所轄消防署の許可をとって、屋外で焼却処理） 2. 爆発性物質 N－O結合、N－N結合、N－X結合、O－O結合、O－X結合をもつもの。 その他アセチレンとその誘導体などを含むものは除く。これらについては排出者の責任で安全化、無害化しよりすること。 3. ベンジジンなど、健康障害をひきおこす化学物質は除く。これらについても排出者の責任で安全化、無害化処理すること。 4. 濾過残渣は、実験廃棄物として貯留すること。（別途処理）		本学が支給する「火気厳禁」を表示した赤色タグ付容器
	廃油 (水を含まないもの) II	1. 灯油、ミネラルスピリット、軽油、テレピン油などの廃油 2. 重油、クレオソート油、スピンドル油、タービン油、変圧器油などの廃油 3. ギヤー油、モーター油などの廃油 4. 動植物油（液）などの廃液 以上の廃油中に爆発性を有しない少量の中性有機物(アミド、エステル類など)を含むものは可 [注意] 高粘度の廃油は灯油などで粘度を下げ、20cp以下にすること。	1. 変圧器油のうち、PCB及びPCBを含むものは除く。PCBは別の法律によって厳しく規制されている。 2. 濾過残渣、油泥などは、実験廃棄物として貯留する。（別途処理）		本学が支給する「火気厳禁」を表示した赤色タグ付容器
F 難燃性廃液	ハロゲン系 廃溶剤 (水を含まないもの) I	1. 脂肪族ハロゲン系化合物 クロロホルム、塩化メチル、ジクロロメタン、四塩化炭素、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1-1-1-トリクロロエタン、臭化メチル、沃化メチルなどの廃溶剤 2. 芳香族ハロゲン系化合物 クロロベンゼン、塩化ベンジルなどの廃溶剤 以上の廃溶剤中に爆発性を有しない少量の中性有機物（アミド、エステル類など）を含むものは可	1. PCB及びPCBを含むものは除く。 2. 爆発性物質 N－O結合、N－N結合、N－X結合、O－O結合、O－X結合をもつもの。 その他アセチレンとその誘導体などを含むものは除く。これらについては排出者の責任で安全化、無害化処理すること。 3. 濾過残渣は、実験廃棄物として貯留する。（別途処理）		本学が支給する赤色タグ付容器
	難燃性有機廃液 (水を含むもの) II	1. 炭化水素系、ハロゲン系廃溶剤5%以上を含む水混合廃液 2. 有機酸、アミン類など5%以上を含む水混合廃液 3. その他の有機化合物の水溶液廃液 4. 難分解性シアン錯体の廃液(赤血塩、黄血塩等) 5. 有機シアン化合物の廃液 6. 有機金属系（例えば金属キレート化合物）の廃液 [注意] pH明示すること。	1. 水分95%以上で有害物を含まず、生分解性のもの（アルコール類、脂肪酸、糖類、アミノ酸、ペプチド、アセトンなど）は、当面放流して可 2. 有機金属系廃液のうち、水銀系の廃液は、A分類に入れること。 3. PCB及びPCBを含むものは除く。PCBは別の法律によって厳しく規制されている。		本学が支給する赤色タグ付容器
	フッ素系廃溶剤 III	1. 芳香族、フッ素化合物 フルオロトルエン、フルオロフェノール、フルオロベンゼンなどの廃液 2. その他のフッ素含有溶剤 フルオロエタノール	1. フロンガスは除く。これは専門業者に回収される。		本学が支給する赤色タグ付容器
	写 廃液	1. 現像・停止廃液 2. 定着廃液	[注意] 定着廃液は、Ag再生のため、別途専門御者に回収させるので、分別貯留すること。		本学が支給する赤色タグ付容器

廃液等回収区分(分別貯留容器区分)					
分類	種類	対象成分	摘要	優先順位	容器
G 実験動物	実験動物	1. 一般実験動物 2. 有害物質投与実験動物	実験動物は、専門業者に回収させるので、一般実験動物と有害物質投与実験動物を明確に区分し、実験廃棄物として保管する。 なお、有害物質投与実験動物については、有害物質を明確にし、それぞれ区分して保管する。		適宜
H その他	不要薬品類 I	不要の薬品等	専門業者に回収させるので、容器に入れたまま保管す		
	容器類 II	試薬用ガラス瓶等	残存内容物を洗浄し、内部の薬品等を除去したのち所定の場所に集積する。		
	電池類 III	筒形、ボタン電池等	所定の場所に集積する。		

備考 実験動物の項中、有害物質とは、シアン化合物、アルキル水銀、有機リン(パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいう。)、カドミウム、鉛、クロム、ヒ素、総水銀、PCB、芳香族炭化水素、芳香族アミン及びニトロ化合物、芳香族アゾ化合物及びそれらの複素環式同族類、複素環式化合物、ニトロソ化合物を含む脂肪族化合物並びに無機物質のベリリウム、ニッケル、コバルト及びアスベストをいう。

(注意共通事項)

- 1 沈殿物があれば濾過するか溶解しておくこと。
- 2 内容物を明示すること。